



# 解答紙

(4枚のうち2枚目)

## II (30点)

問1	①	気がかりな気持ち
	②	まことに尊いこと
	③	ゆつくりとおいでになって
問2	どうして拝み申し上げないことがあろうか、いや、拝み申し上げている、という返事をした。	
問3	本当の仏ならば矢は刺さらないが、目の前の普賢菩薩は偽物であろうから、射かけると矢がささるだろうと想定している。	
問4	㊦	(3)
	㊧	(1)
問5	長年ひたすら仏道修行をしてお経を読んでいる聖に仏の姿が見えるのはともかく、童も自分も文字が読めないうえに、自分は殺生という仏罰を受けるような行為をしているのに、自分と童に仏が見えるのは納得できないので、目の前の普賢菩薩は本当の仏ではないだろう、というもの。	

採点

--	--

## 三 (30点)

問1	① 雪のせいで何もすることがなく手持ちぶさただったので
	② 為正のところへやって来ましたので
	③ ほうびとして与えた
問2	雪に埋もれる山の景色を、生駒山の名の「駒」にちなんで葦毛の馬に見立てた。
問3	雪が降ると、雪間に山肌が交じり、白毛に黒などの毛が交じった葦毛の馬のように見える生駒山だ
問4	幸文太の、わざと高く咳払いをし、人より目立つように前に出てきて、自らが考えた下の句を披露したそうにする様子。
問5	重之の句にふさわしい下の句をなかなか思いつかず苦勞している間に、幸文太が先に句をつけそうだったので、それを制したが、句をつけられないまま時間がたったため、困り果てて、幸文太が句を披露することを認めた。
問6	ウ → イ → エ → ア

採点

--	--

解答紙

(4枚のうち4枚目)

(文学部)

四 (45点)

問1	④ ひそかに	⑤ こたへて	⑥ にはかに(して)
問2	肥満した腹は五経すべてを入れる箱である。		
問3	寝(ねて)周公と夢に通じ(て)、静(かにして)孔子と意を同じくす。		
問4	先生に対して嘲笑してよいというのは、どんな経典の記述に基づいているのか。		
問5	見 <sub>レ</sub> 其未 <sub>レ</sub> 出		
問6	華亭県の次官と名家の主人は、二人とも寝ている相手を起こすことができず、自身も睡魔に勝てず、交互に眠ってしまい、結局二人は会えずじまいであったところ。		
問7	⑥ 対坐亦睡		
	⑦ 及丞再醒暮矣		

採点